

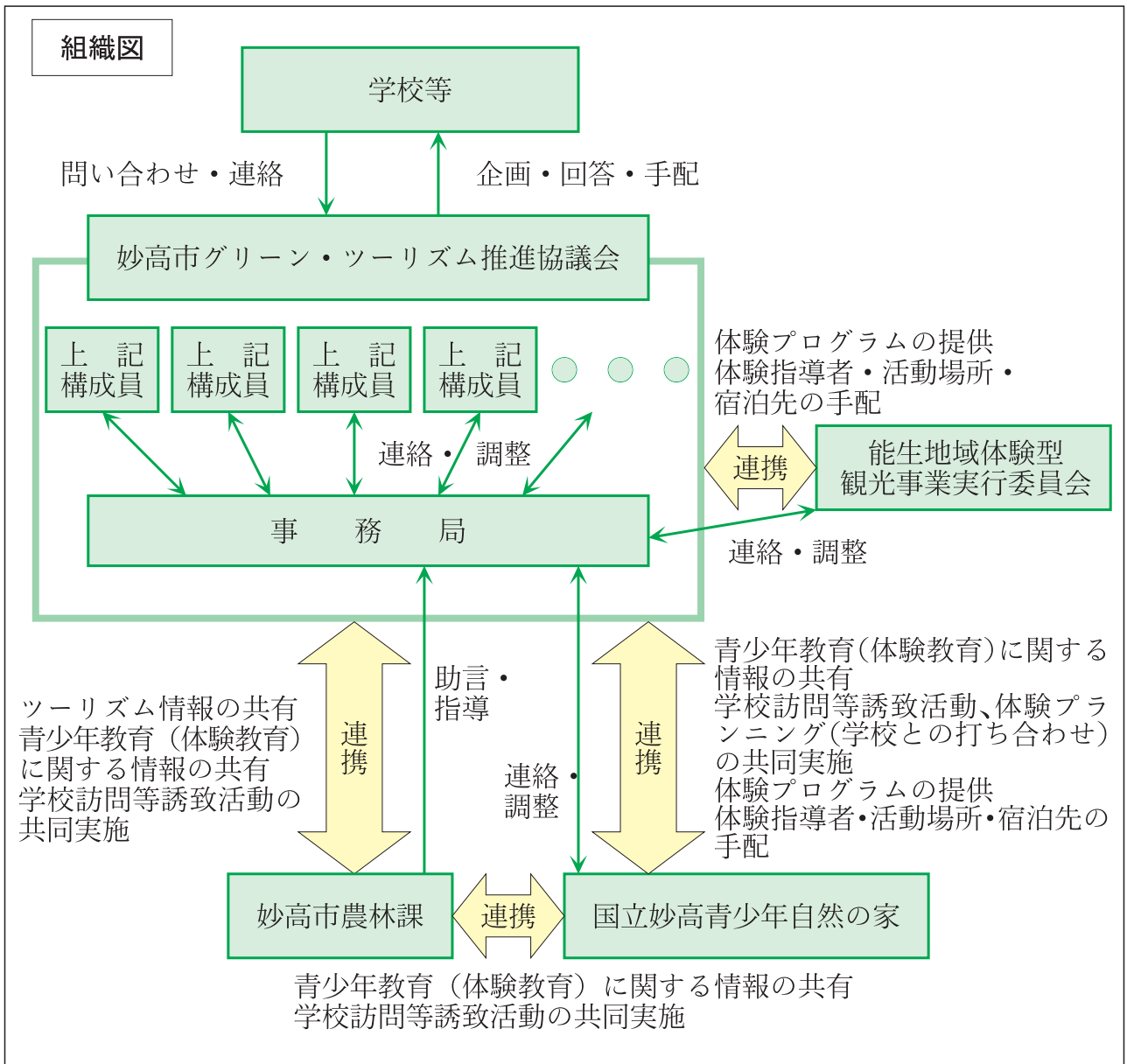
みょうこう

妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会

連絡先

住 所	新潟県妙高市大字関山6186-1 妙高山麓都市農村交流施設
電話番号	0 2 5 5 - 8 2 - 3 9 3 5
FAX 番号	0 2 5 5 - 8 2 - 3 9 3 6

受入体制



妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会員および連携機関一覧

◆協議会員

区 分	協議会役職	構 成 員	
地域活性化施設等運営団体		矢代交流施設運営組合	組合長
	監事	杉野沢交流施設運営組合	組合長
	会長	大滝体験交流施設運営組合	組合長
		長沢茶屋事業組合	組合長
		深山の里	代表
	副会長	クラインガルテン妙高応援隊	代表
都市・農村交流推進団体		NPO法人グッドライフ妙高	代表
		自然学校ねぎぼうず	
		ねおかんぱーにゅ南部	代表
	副会長	杉野沢山里体験旅行会	代表
		大洞原ジャガイモの会	代表
観光振興団体		妙高市観光協会	会長
		アパリゾート妙高パインバレー	企画営業
		休暇村妙高	支配人
林業振興団体		頸南森林組合	組合長
教育機関	監事	国際自然環境アウトドア専門学校	副校長

◆アドバイザー

妙高市農林課 (妙高市グリーン・ツーリズム推進本部)

◆連携機関

国立妙高青少年自然の家
能生地域体験型観光事業実行委員会

妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会の概要

1. 目的

妙高山麓の豊かな自然資源を最大限に活かしたグリーン・ツーリズムの推進により、生命の源である農山村の活性化を図る。

○体験教育旅行の受入を推進し、次世代への食農教育による農山村の価値や農林業の重要性の啓発を行うとともに、子どもたちとのふれあいによる農家の生きがい創出や農産物・特産品のPR・販売促進、そして農家の所得拡大を図る。

○ワーキングホリデーやラーニングバケーションの受入を推進し、都市住民との協働による美しい農村景観や伝統文化の保全を図る。

2. 活動内容

① 教育旅行等の誘致・受入体制強化	○学校・旅行者等への訪問による誘致活動 ○中山間地域へのグリーン・ツーリズム普及 ○安全管理研修、民泊受入研修等の実施
② 魅力的な体験プログラムの整備	○地域資源の調査(踏査・地元住民への取材) ○妙高山麓体験メニューの作成 ○メニューの組み合わせによる妙高独自の体験プログラム作成(ツーリズム商品の開発)
③ 人材育成	○グリーン・ツーリズムインストラクター等の養成とネットワーク化 ○全国グリーン・ツーリズムネットワーク大会、新潟県グリーン・ツーリズムサミット等各種研修や視察への参加・派遣
④ 関係企業・友好都市との交流事業の推進	○食育や農山村での生活体験等を通じた交流事業の実施
⑤ 魅力的な体験フィールドの整備	○都市住民との地元住民との協働による景観保全活動 ○フィールドのマップ化
⑥ 情報発信の充実	○各種パンフレット等の作成 ○友好都市での物産展やふるさと回帰フェア、関係教育機関等での取組PR ○ホームページの作成・更新による情報の受発信

3. 取組体制

① 協議会員	活動団体	○地域活性化施設運営団体 ○NPO法人や地域有志等のグリーン・ツーリズム実践団体 ○自然体験系教育機関 ○食育推進団体 ○観光振興団体 ○林業振興団体
	宿泊施設	○妙高高原地域の農家民宿 ○妙高地域のホテル
② 事務局	協議会の運営	○専属事務局員
③ 連携機関	行政	○妙高市農林課 ※GT担当職員は協議会のアドバイザー
	青少年教育施設	○国立妙高青少年自然の家
	地域活性化団体	○能生地域体験型観光事業実行委員会

受入学校名

新潟県南魚沼市立五十沢小学校

当該小学校の受け入れの経過

(1) 小学校との最初の接点（きっかけ）

国立妙高青少年自然の家の利用

(2) その後の小学校への対応

- ・受入農家（民宿）下見の対応
- ・農家民宿と自然の家でのプログラムも含めて、全体のプログラム作りへ助言及び相談に対応
- ・学校での保護者説明会に、自然の家の職員、農林課職員、協議会職員で出席

小学校が当地を選定した理由

国立妙高青少年自然の家が地域内にあり、自然の家のプログラム（妙高アドベンチャー等）と、農家民宿の両方のメリットを生かすことができ、教育効果が高く、かつ地域との交流ができるという、奥の深い体験が出来るため。

（農家民宿の前後に自然の家プログラムを取り入れるサンドイッチ型の体験）

受入地域への効果

* 受入先である妙高市杉野沢地区（スキー民宿）限定の効果

- ・時期が9月下旬～10月の受入のため、閑散期の集客。
- ・杉野沢の郷土芸能（春駒）グループとの交流によって、宿の人以外の地区住民とも交流があった。
- ・スキー客の受入がメインのため、長年流れ作業のような受入ばかりだったのが、宿を始めたきっかけや、初心に帰り地域の魅力を伝えたり、自分の得意分野を活かしたりする事で、自分たちの仕事の楽しさを思い出させてくれるきっかけとなった。
- ・受入後も、手紙や写真が送られてきたり、家族で泊まりに来たりと、家族ぐるみの付き合いが始まった。

受け入れた小学校との関係維持への対応

年1回程度、受入農家の方々と学校訪問し、子どもたちとの交流や先生方との意見交換会を実施している。